

月刊 サンエスウォッチング Vol.25

楕円で楽ランク ～ラ・クランク オーバル チェンリング～

Dixna (ディズナ)

▶ディズナ「ラ・クランク」はJFFフレームの開発を基礎として派生した「三位一体」のひとつ、Qファクターとクランク長にこだわって作った製品です。(詳細はVol.9)

▶2013年の発売から、多くの皆さんにご使用いただくに連れて、Qファクターのベースはそのままに、クランク長と歯数の追加要望も多くなりました。クランク長130mmや歯数34×24Tまで……。ここまで来るとはやオーバルへの要望は必然的なことでした。そして昨年春から取り掛かったオーバルリングが商品としてようやく出来上がりました。

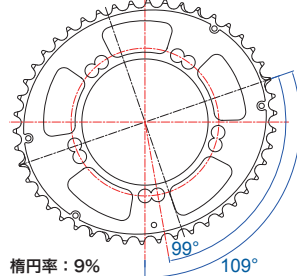
▶ラ・クランク用オーバルリングのコンセプトは「レース志向ではなく多くのライダーに合うもの」でした。Qファクターやクランク長などの製品個性を生かすオーバル設定とは？ それはとにかく、違和感なく素直に楕円の恩恵を受けられること。何しろ数値設定がとく難しい楕円です。楕円率と角度は・・・野球に例えるなら、誰にでも打ちやすい穏やかな直球をストライクゾーン真ん中に入れるようなつもりで、決めました。個性の振れ幅用に二つの取り付け角度を設定し、アウターは違和感少なく円運動ができるように、インナーはしっかりと楕円による楽登坂ができるようにと楕円率を設定。しかもインナー最小は30T。デザインは「はい、私はオーバルです」と強調しない程度に抑えて。

▶旅から通勤などの日常まで、全てのフィールドでラ・クランク楕円による自力省エネ運転は「楽」をもたらしてくれると思っています。



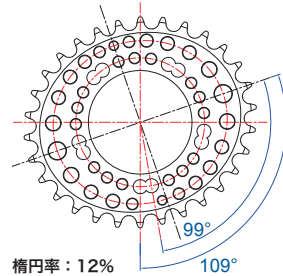
ツーリングにオーバル...ラ・クランクなら違和感なくトライできます。
(フレームはSOMA ペスカデロ)

アウター (PCD110mm)



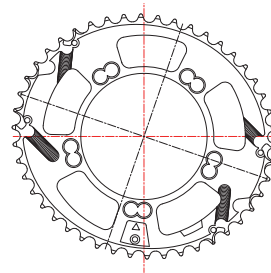
楕円率：9%

インナー (PCD74mm)



楕円率：12%

基本にあるJFFフレームの志向は、懐深く、持続性のある身体の後側の筋肉を積極的に使い、バイクコントロールもしやすく快適に長時間走行する、というものです。角度についてはそのような背景の乗車スタイル（踏み下ろし優先の前乗りポジションではない）を前提にしているところもあり、敢えて99度も設定しています。



50×34Tと46×30Tの組み合わせのみとし、変速性能向上のためのガイドラインを適所にしっかり取っています。素材は強靱な7075 T6 アルミ。インナーは34T、30T共にPCD74mmのため「PCD110×74用チェンリングボルトセット」が必要です。(チェンリングはBK・歯先のみSL)



左はシルバークランクに46×30Tを99度位置に、右はブラッククランクに50×34Tを109度位置に設定した状態です。アウターの抜き穴外周を敢えて真円にすることで楕円形状の違和感を軽減。インナーはアクセントのあるホールで軽量化。46×30Tの歯のみ重量は146gです。



オーバルリングはストップ＆ゴーの多い日常の街中にも向いています。
(フレームはJFF #501)

VIVA

～自転車万歳！！～ (連載コラム：全12回)

[第9回]

デザインから織製までの全製造工程をドイツで行う「H.A.D」とVIVAがコラボレーションしたヘッドバンド・・・その名も「ビバンド」は昨秋発表の製品。クールマックスを使用した幅約10cmのバンドですが、ネックやスカーフとしても使用されるライダーがおられます。10cmの幅が逆に呼吸しやすいそうです。

VIVA

